

施工上の注意事項

《下 地》

- 下地がコンクリート、モルタルの場合は、下地の乾燥を十分行ない、含水率 10%以下、pH 10 以下で施工してください。
- 汚染物の除去は水を含ませた清潔な布で拭き取り後、乾いた布で乾吹きして乾燥させて下さい。汚れがひどい場合は水で中性洗剤を薄めて拭き取ってください。
- かびや藻が発生している場合は、塩素系漂白殺菌剤「K S クリーナー」などで殺菌洗浄を行ってください。
- ヤニ、シミが著しい場合は水拭き後、下塗りとして水系シミ止め白色下塗材「シミナイト」を使用してヤニ止めを行った後上塗りを行ってください。
- コンクリート下地の旧塗膜の劣化が著しい場合や吸込みの著しい場合は、劣化塗膜を除去した後に、「キクスイ浸透性プライマーE」や「キクスイ S P パワーシーラー」を使用してください。
- 押出成形セメント板、GRC 板、ケイ酸カルシウム板などには、下塗りとして「キクスイ S P パワーシーラー」や、「キクスイ プライマーE PW」を使用してください。
- ALC やコンクリートなどで巣穴、段差などがある場合は、セメント系下地調整塗材「BR # 1 5」等で処理してください。
- 布クロス、紙クロス、汚染防止加工されたクロスには塗装しないでください。剥離を起こす場合があります。
- プラスターボードなどパテかい部とそれ以外の面で吸込み性の違いで色むらなど仕上がりに影響が出る恐れがありますので、下塗りを塗装して均一な状態にしてください。
- ドアのゴムパッキンなど可塑剤を含むものやシーリング材への塗装は塗膜の汚染、剥離などが起こる場合がありますので塗装しないでください。
- 下地が弾性系塗膜の場合には、弾性系上塗材を使用してください。

《環 境》

- 塗膜の乾燥過程で水分の影響を受けた場合、(高湿度、結露、降雨等) 塗膜表面が白化する場合があります。施工場所の気温が 5℃以下、湿度 85%以上又は結露の発生が考えられるなど、水分の影響を受ける可能性がある場合は、施工を行わないでください。また、低温又は高湿度時は、乾燥が遅くなりますので施工を行わないでください。
- 外部の施工で降雨、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を行わないで

ください。

- 絶えず結露が発生するような部位、場所への塗装はしないでください。
- 施工時は換気を十分に行ってください。

《施 工》

- 施工時は飛散防止として養生は十分に行ってください。
- 施工面とその周辺（車や付帯設備を含む）や床などに汚染や損傷を与えないように注意し、必要に応じて、あらかじめ施工箇所周辺に適切な養生を行ってください。
- 材料は均一にミキサーで攪拌してから使用してください。
- 材料の希釈量は所定の量により、所定の所要量を守り事前の試験塗りなどで決定してください。希釈の過多、不足はダレや隠ぺい不足、仕上がりムラの原因になります。
- 各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を守って施工し、適正な塗付量を確保してください。
- 色、模様決定に当たっては事前に見本板で確認してください。
- 被塗物の形状、膜厚、塗回数、希釈量などの違いにより実際のつやと異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所でも起こる場合があります。特に艶調整品は、被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の艶と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
- 既存塗膜の剥離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ローラー塗りの場合は、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることが有ります。
- 傷などで補修塗りが必要な場合がありますので、補修用に使用塗料の控えを取っておき、同一塗料、同ロット、同一方法で補修してください。また、濃色塗料は、被塗物の形状、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間等により、実際の色と若干違って見える場合がありますので、試し塗りの上、本施工してください。
- 他の材料と混合して使用しないでください。
- 上塗りのローラー塗装において、綿毛のローラーで水系塗料を塗装し泡が発生した場合は、糸毛のローラーを使用してください。
- 使用後は刷毛やローラーなどは十分に洗浄してください。
- 溶剤形の製品を取り扱う場合には、特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。

《材 料》

- つや調整品は、はけ、ローラーでの塗装はムラが出やすくなります。スプレー塗装をお勧めします。
- つや調整品は、塗料が分離しやすいので、良くミキサーで混ぜながらご使用ください。
- 刷毛塗りとローラー塗り、スプレー塗りが混在する場合、施工方法の違いで若干の色相差が生じます。希釈量を調整するなどして塗装してください。
- 濃色や原色に近い色彩では塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類などに触れる可能性のある部位への施工は行わないでください。施工する場合は、クリヤーによる保護塗装を行ってください。
- 上塗りに黄色、赤色、青色、緑系の彩度の高い色を塗装する場合、隠ぺい性が不足する場合がありますのであらかじめ中塗りとして共色を塗装してください。
- 水性塗料には動物毛の刷毛は固まり塗装に支障が出ますので化繊の刷毛を使用してください。
- 艶消し品や濃色品では低温時、湿度が高い状況下などでは塗膜に艶が出たり、白濁、塗膜中成分の流出が起こる場合があります。
- 希釈した材料を後日使用すると、色相が変わる場合があります。希釈した材料は、その日のうちに使い切るようにしてください。
- 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行ってください。

《保 管》

- 直射日光下や屋外、0℃以下での保管はしないでください。

《その他》

- 建築用仕上塗材（JIS A 6909）複層塗材および可とう形改修塗材は、下塗材・主材・上塗材を同一メーカーの指定された製品を使用しないと、J I S規格品とはなりません。

安全衛生上の注意事項

- 製品の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細はSDS（安全データシート：旧MSDS）を参照してください。
- 取扱い後は手洗い、うがいを十分に行なってください。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、防毒・防塵マスクなどを着用してください。
- 目に入った時は直ぐに水で洗い、速やかに医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は速やかに医師の診断を受けてください。
- エポキシ樹脂系の材料は、皮膚にかぶれを引き起こす恐れがあります。皮膚に付着しないよう特に注意してください。
- 皮膚についた場合は、多量の水と石鹼で洗ってください。また、皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断を受けてください。
- 使用後保管する際は無希釈の状態ですっかり密栓して冷暗所に保管し、できるだけ早目に使用してください。
- 缶の取手は手さげ専用です。ロープやフックで吊り下げると外れることがあります。絶対に行わないでください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。
- 塗料、塗装器具を洗浄した汚水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処理してください。

*本仕様書の内容は予告なしに変更することがあります。施工に当たっては常に最新版の仕様書を参照し、適切な対策を取るようになしてください。